

研究番号 16-01

科学と人間生活との関わりを実感させる 理科の授業づくりに関する研究

研究の背景

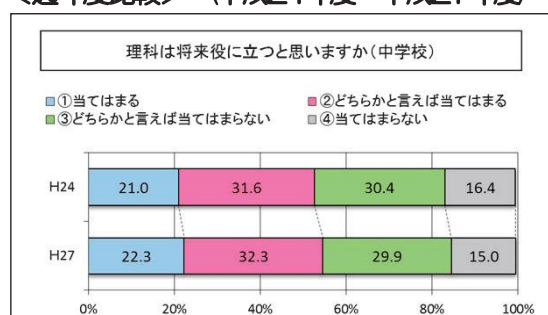
①学習指導要領の趣旨

【改善の基本方針】（中学校・高等学校学習指導要領解説理科編）

理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせ、科学への関心を高める観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する方向で改善を図る。

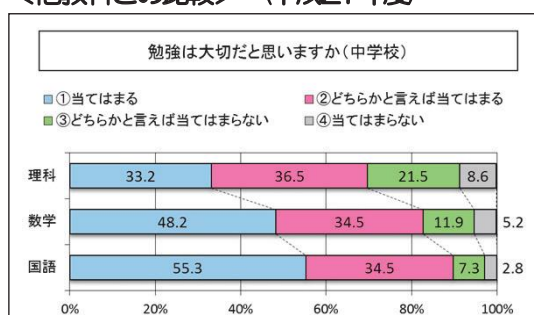
②全国学力・学習状況調査（中学校・全国集計の結果）

＜過年度比較＞（平成24年度・平成27年度）



→肯定的な回答が微増したが、依然として課題がある。

＜他教科との比較＞（平成27年度）



→他教科に比べ、肯定的な回答が少ない。

研究の目的

科学的な知識や概念を活用し、「実社会や実生活と関連付け」ながら、「科学を学ぶ意義や有用性を実感」させ、科学への関心を高める学習活動や授業実践を提案する。

研究の内容

理科に対する意識について生徒アンケート調査、実施・分析

- 生徒が考える、科学と日常生活との関わりとはどのようなものか
- 理科に対して、どのような意識をもっているか

理科の授業づくりの方策の検討

- 実態把握と題材選び
 - －授業・単元の構想の段階で意識すること－
- 思考場面の設定
 - －1単位時間の授業で意識すること－
- 学びの手ごたえ
 - －授業・単元を貫いて意識すること－

生徒が「自ら学び、自ら気付く」授業の実践、指導資料作成